

佐賀県総合運動場等整備基本計画に係る基本的な考え方

1 総合運動場・総合体育館エリアの目指す姿

県民にとってスポーツを「する」楽しみだけでなく、「観る」、「支える」、「育てる」など、日常生活のワンシーンとして、スポーツが広く親しまれ、暮らしの中に溶け込み、長きにわたり県民の夢や感動を生み出す県内スポーツのレガシーエリアとなっている。

【参考】

10年後の佐賀県の目指す将来像（佐賀県総合計画 2015）

【文化・スポーツ・観光の交流拠点 さが】

県民の誰もが文化やスポーツに親しみ、楽しむ風土が形成され、地域内外の人と人とながら交流拠点づくりが進んでいます。

◎『する』スポーツとは・・・

年齢、性別、障害の有無に関係なく、県民誰もが、それぞれのスタイルで、楽しみながらスポーツを行うことを意味する

◎『観る』スポーツとは・・・

Jリーグや Vリーグなどのプロの試合や国内トップレベルのアスリートやチームなどの試合を、快適な環境で観戦することを意味する

⇒スポーツを産業として捉え、観戦者の視点や収益性の観点を持って整備を行う必要がある

◎『支える』スポーツとは・・・

地域のスポーツ活動を支えたり、ゲームズメーカーのように応援やスポーツボランティアを通じて運営を支えるなどを通じて、スポーツを楽しむ活動のことを意味する

◎『育てる』スポーツとは・・・

佐賀県のアスリートやチームが世界や国内トップレベルの舞台で活躍することを目指し、地元選手の競技力の向上を図るため、中長期的な視野に立って選手の育成強化、指導者の養成などを行うことを意味する

2 総合運動場・総合体育館の整備エリア

<県内のスポーツ施設の状況>

県下全域を見ると、各市町単位では運動場や体育館は偏りなく配置されているが、全国レベルなどの大規模な大会を開催できるような施設は少ない。

一方、総合運動場・総合体育館エリアは、県を代表するスポーツ施設が充実しており、全国レベルをはじめ、九州、県レベルの大会が多く開催されている。

<総合運動場・総合体育館エリアの評価>

現在の、県下全域からのアクセスはもちろん、空港や駅、高速道路などの交通機関に近いことから、県外からのアクセスもよい。

また、ホテルや総合病院に近いなど、様々な施設がコンパクトにまとまっているなど、国内外からキャンプに訪れるチームなどから高い評価をもらっている。



現在の総合運動場・総合体育館エリアの特徴を活かしていくためにも、現在のエリアで施設の整備を行うこととする。

【県内の交通アクセス】



3 施設の規模・機能

国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催はもちろんのこと、プロスポーツ（Ｊリーグ、Ｖリーグ、Ｂリーグなど）の試合開催に必要な施設規模や機能を満たすような施設を想定し、検討していくこととする。

また、施設の整備にあたっては、大会開催に必要な基準など『する』側の視点だけでなく、快適な観戦環境など『観る』側の視点や多目的利用の視点を持って施設の規模・機能を検討するものとする。

【活用方法】

- ・ 地元プロスポーツチームのホーム会場
- ・ 大規模スポーツイベント、大会の会場
- ・ 大規模文化催事の会場、コンサート会場
- ・ 県民の利用や県大会や九州大会、全国大会等（従来の「する」スポーツでの利用）